

平成29年10月24日公表

平成29年産大豆、小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の作付面積

－ 大豆の作付面積は前年産並み －

【調査結果】

1 大豆

大豆の作付面積は15万200haで、前年産並みとなった。

2 小豆

小豆の作付面積は2万2,700haで、前年産に比べ1,400ha（7%）増加した。

このうち、主産地である北海道の作付面積は1万7,900ha（全国の約8割）で、いんげんからの転換等により、前年産に比べ1,700ha（10%）増加した。

3 いんげん

いんげんの作付面積は7,150haで、前年産に比べ1,410ha（16%）減少した。

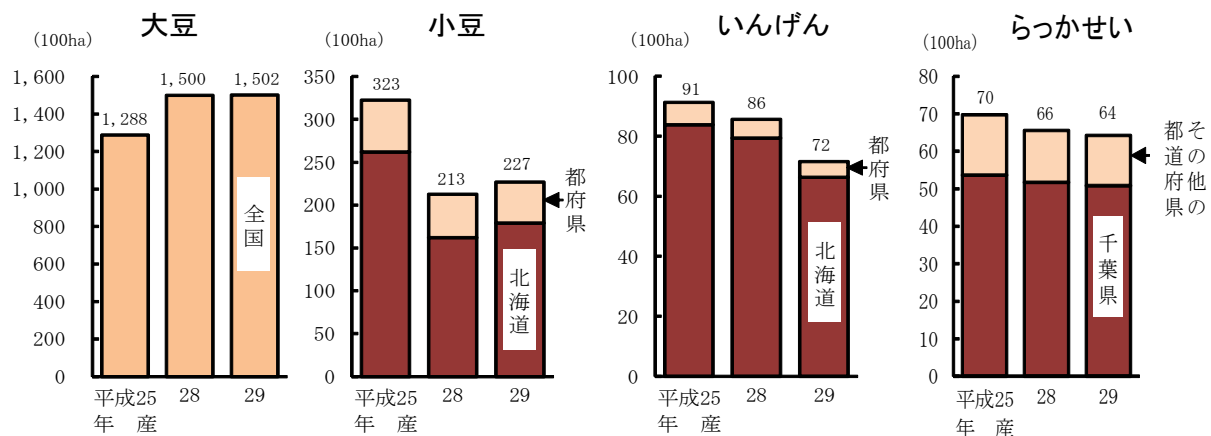
このうち、主産地である北海道の作付面積は6,630ha（全国の約9割）で、小豆への転換等により、前年産に比べ1,310ha（16%）減少した。

4 らっかせい

らっかせいの作付面積は6,420haで、前年産に比べ130ha（2%）減少した。

このうち、主産地である千葉県の作付面積は5,080ha（全国の約8割）で、前年産に比べ90ha（2%）減少した。

図 大豆、小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の作付面積の推移



○ 小豆、いんげん及びらっかせいの作付面積については、平成29年産から、調査の範囲を全国から主産県に変更し、3年ごとに全国調査を実施することとした。平成29年産は主産県調査年であり、全国調査を行った平成28年産の調査結果に基づき、全国値を推計している。

なお、主産県とは、平成28年産における全国の作付面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県及び畑作物共済事業を実施する都道府県である（小豆：北海道、滋賀県、京都府及び兵庫県、いんげん：北海道、らっかせい：茨城県及び千葉県）。

○ 収穫量（概数）については、平成30年2月に公表を予定している。

本資料は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/index.html#y6> 】

◎ 調査結果の主な利活用

- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 小豆、いんげん及びびらっかせいの関税割当数量の算定のための資料

◎ 累年データ

1 大豆、小豆、いんげん及びびらっかせい（乾燥子実）の作付面積の推移（全国）

単位：ha

区 分	大 豆			小 豆		
	計	田	畑	計	田	畑
平成20年産	147,100	126,300	20,800	32,100	6,880	25,200
21	145,400	124,800	20,600	31,700	6,700	25,000
22	137,700	119,000	18,700	30,700	6,080	24,600
23	136,700	117,200	19,500	30,600	5,760	24,900
24	131,100	111,500	19,600	30,700	5,290	25,500
25	128,800	108,900	19,900	32,300	5,140	27,200
26	131,600	110,800	20,800	32,000	4,800	27,200
27	142,000	117,700	24,300	27,300	4,040	23,300
28	150,000	120,300	29,800	21,300	3,350	17,900
29（概数）	150,200	120,800	29,400	22,700	3,240	19,400

区 分	いんげん			らっかせい		
	計	田	畑	計	田	畑
平成20年産	10,900	483	10,500	8,070	179	7,890
21	11,200	482	10,700	7,870	174	7,690
22	11,600	502	11,100	7,720	187	7,540
23	10,200	423	9,760	7,440	170	7,270
24	9,650	404	9,250	7,180	142	7,040
25	9,120	365	8,760	6,970	140	6,830
26	9,260	301	8,960	6,840	140	6,700
27	10,200	330	9,910	6,700	138	6,560
28	8,560	292	8,270	6,550	132	6,420
29（概数）	7,150	318	6,840	6,420	133	6,280

資料：農林水産省統計部『耕地及び作付面積統計』（以下同じ。）

2 小豆及びいんげん（乾燥子実）の作付面積の推移（北海道）

単位：ha

区 分	小 豆	いんげん		
			金 時	手 亡
平成25年産	26,200	8,380	5,550	2,100
26	26,300	8,540	5,700	2,240
27	21,900	9,550	6,260	2,720
28	16,200	7,940	6,170	1,200
29（概数）	17,900	6,630	5,070	1,060

【統計表】

1 平成29年産大豆（乾燥子実）の作付面積

全国農業地域 都道府県	計			田			畑		
	作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較	
		対差	対比		対差	対比		対差	対比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全国 (全国農業地域)	150,200	200	100	120,800	500	100	29,400	△ 400	99
北海道	41,000	800	102	18,900	700	104	22,100	100	100
都府県	109,200	△ 700	99	101,900	△ 200	100	7,340	△ 460	94
北海道	36,300	400	101	33,700	300	101	2,520	△ 20	99
北陸	13,500	100	101	12,800	0	100	680	8	101
関東・東山	10,500	△ 200	98	8,210	△ 110	99	2,290	△ 120	95
東海	12,200	0	100	11,700	0	100	486	△ 12	98
近畿	9,790	△ 50	99	9,640	△ 50	99	147	△ 2	99
中国	4,740	△ 150	97	4,360	△ 130	97	382	△ 25	94
四国	557	△ 31	95	519	△ 24	96	38	△ 7	84
九州	21,700	△ 500	98	20,900	△ 300	99	792	△ 298	73
沖縄 (都道府県)	0	△ 1	0	-	-	nc	0	△ 1	0
北海道	41,000	800	102	18,900	700	104	22,100	100	100
青森	4,940	130	103	4,550	110	102	396	26	107
岩手	4,640	90	102	3,980	100	103	665	0	100
宮城	11,200	△ 100	99	11,000	0	100	276	1	100
秋田	8,720	240	103	8,280	220	103	440	19	105
山形	5,130	△ 20	100	5,020	△ 20	100	109	△ 4	96
福島	1,590	△ 70	96	951	△ 14	99	634	△ 60	91
茨城	3,640	△ 90	98	2,770	△ 90	97	870	0	100
栃木	2,560	△ 120	96	2,390	△ 100	96	173	△ 11	94
群馬	316	15	105	171	17	111	145	△ 2	99
埼玉	679	△ 26	96	454	35	108	225	△ 61	79
千葉	900	24	103	661	20	103	239	4	102
東京	8	4	200	0	0	nc	8	4	200
神奈川	42	3	108	9	1	113	33	2	106
新潟	5,160	10	100	4,930	0	100	230	9	104
富山	4,780	△ 30	99	4,770	△ 30	99	8	0	100
石川	1,700	20	101	1,300	30	102	404	0	100
福井	1,820	20	101	1,780	20	101	38	△ 1	97
山梨	218	△ 2	99	145	0	100	73	△ 2	97
長野	2,140	△ 30	99	1,610	10	101	528	△ 45	92
岐阜	2,910	△ 40	99	2,800	△ 40	99	105	△ 4	96
静岡	255	△ 29	90	185	△ 24	89	70	△ 5	93
愛知	4,530	20	100	4,290	30	101	242	△ 12	95
三重	4,490	20	100	4,430	20	100	69	9	115
滋賀	6,610	△ 70	99	6,580	△ 70	99	34	0	100
京都	304	△ 20	94	273	△ 19	93	31	△ 1	97
大阪	16	0	100	16	0	100	0	0	nc
兵庫	2,680	50	102	2,630	50	102	48	0	100
奈良	150	△ 8	95	118	△ 7	94	32	△ 1	97
和歌山	29	0	100	27	0	100	2	0	100
鳥取	713	△ 2	100	705	△ 2	100	8	0	100
島根	823	△ 50	94	712	△ 49	94	111	△ 1	99
岡山	1,730	△ 90	95	1,550	△ 80	95	180	△ 12	94
広島	566	△ 39	94	512	△ 27	95	54	△ 12	82
山口	906	24	103	877	24	103	29	0	100
徳島	42	△ 10	81	37	△ 8	82	5	△ 2	71
香川	72	△ 11	87	70	△ 10	88	2	△ 1	67
愛媛	354	△ 10	97	332	△ 6	98	22	△ 4	85
高知	89	0	100	80	0	100	9	0	100
福岡	8,410	△ 20	100	8,390	△ 30	100	19	2	112
佐賀	8,150	△ 220	97	8,060	△ 210	97	95	1	101
長崎	449	11	103	367	3	101	82	8	111
熊本	2,440	△ 240	91	1,990	50	103	455	△ 280	62
大分	1,700	△ 20	99	1,640	0	100	65	△ 10	87
宮崎	233	△ 28	89	203	△ 30	87	30	2	107
鹿児島	328	△ 27	92	282	△ 11	96	46	△ 16	74
沖縄	0	△ 1	0	-	-	nc	0	△ 1	0

2 平成29年産小豆（乾燥子実）の作付面積

区 分	計			田			畑		
	作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較	
		対差	対比		対差	対比		対差	対比
全 国	22,700 ^{ha}	1,400 ^{ha}	107 [%]	3,240 ^{ha}	△ 110 ^{ha}	97 [%]	19,400 ^{ha}	1,500 ^{ha}	108 [%]
うち北海道	17,900	1,700	110	1,250	△ 10	99	16,700	1,800	112
うち滋賀	52	1	102	37	7	123	15	△ 6	71
うち京都	461	△ 32	94	435	△ 32	93	26	0	100
うち兵庫	690	△ 9	99	649	△ 9	99	41	0	100

3 平成29年産いんげん（乾燥子実）の作付面積

区 分	計			田			畑		
	作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較	
		対差	対比		対差	対比		対差	対比
全 国	7,150 ^{ha}	△ 1,410 ^{ha}	84 [%]	318 ^{ha}	26 ^{ha}	109 [%]	6,840 ^{ha}	△ 1,430 ^{ha}	83 [%]
うち北海道	6,630	△ 1,310	84	263	31	113	6,370	△ 1,340	83
うち金時	5,070	△ 1,100	82	…	…	nc	…	…	nc
うち手亡	1,060	△ 140	88	…	…	nc	…	…	nc

注：種類別（金時及び手亡）については、全国推計及び田畑別の調査を行っていない。

4 平成29年産らっかせい（乾燥子実）の作付面積

区 分	計			田			畑		
	作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較	
		対差	対比		対差	対比		対差	対比
全 国	6,420 ^{ha}	△ 130 ^{ha}	98 [%]	133 ^{ha}	1 ^{ha}	101 [%]	6,280 ^{ha}	△ 140 ^{ha}	98 [%]
うち茨城	561	△ 26	96	19	2	112	542	△ 28	95
うち千葉	5,080	△ 90	98	44	0	100	5,040	△ 90	98

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査及び特定作物統計調査の作付面積調査として実施したものであり、豆類の生産に関する実態を明らかにすることにより、食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料、小豆、いんげん及びらっかせいの関税割当数量の算定のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

(1) 調査の範囲

ア 大豆
全国

イ 小豆、いんげん及びらっかせい

平成29年産から、調査の範囲を全国から主産県に変更し、3年ごとに全国調査を実施することとした。平成29年産は、主産県調査年である。

なお、主産県とは、平成28年産における全国の作付面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県及び畑作物共済事業を実施する都道府県である。

(2) 調査対象者の選定

大豆、小豆、いんげん又はらっかせいを取り扱っている全ての農協等の関係団体とした。

(3) 調査対象者数

	団体数 ①	回収数 ②	回収率 ③=②/①
大豆	638 団体	623 団体	97.6 %
小豆	112	108	96.4
いんげん	50	50	100.0
らっかせい	6	6	100.0

3 調査事項

大豆、小豆、いんげん及びらっかせいの田畑別作付面積
なお、北海道にあつては、いんげんの種類別作付面積

4 調査期日

9月1日現在

5 調査・集計方法

(1) 大豆

全国の関係団体に対する往復郵送調査又はオンライン調査により行った。

集計は、関係団体調査結果を基に職員又は統計調査員による巡回・見積り及び職員による情報収集により補完している。

(2) 小豆

主産県の関係団体に対する往復郵送調査又はオンライン調査により行った。

集計は、関係団体調査結果を基に職員又は統計調査員による巡回・見積り及び職員による情報収集により補完している。

なお、小豆については、平成29年産は主産県調査年であることから、全国調査を行った平成28年産の調査結果に基づき、次により全国値を推計した。

全国値＝主産県の作付面積の合計値＋主産県以外の各都道府県（以下「非主産県」という。）の作付面積(X)の合計値

X：平成28年産における非主産県の作付面積の合計値×作付面積の変動率(y)

また、作付面積の変動率(y)については、全国調査年における非主産県の合計値を用いて1年当たりの変動率(a)を算出し、それに直近全国調査年からの経過年数を乗じることにより算出した。

a：（平成28年産における非主産県の作付面積の合計値÷平成25年産における非主産県の作付面積の合計値）÷3（全国調査の周期）

y：a×経過年数（平成29年産の場合は「1」）

(3) いんげん及びらっかせい

主産県の関係団体に対する往復郵送調査又はオンライン調査により行った。

集計は、関係団体調査結果を基に職員又は統計調査員による巡回・見積り及び職員による情報収集により補完している。

なお、いんげん及びらっかせいについては、平成29年産は主産県調査年であることから、全国調査を行った平成28年産の調査結果に基づき、次により全国値を推計した。

全国値＝主産県の作付面積の合計値＋非主産県の作付面積(X)の合計値

X：平成28年産における非主産県の作付面積の合計値×作付面積の変動率(y)

y：平成29年産における主産県の作付面積の合計値÷平成28年産における主産県の作付面積の合計値

6 目標精度

大豆については、全国の関係団体に対する全数調査結果を用いて統計値を算出していることから、目標精度は設定していない。

小豆、いんげん及びらっかせいについては、主産県の関係団体に対する全数調査結果を用いて全国値を算出していることから、目標精度は設定していない。

7 用語の解説

- (1) 作付面積とは、は種又は植付けをしてからおおむね1年以内に収穫され、複数年にわたる収穫ができない非永年性作物を作付けしている面積をいう。
- (2) 乾燥子実とは、食用を目的に未成熟（完熟期以前）で収穫されるもの（えだまめ、さやいんげん等）を除いたものをいう。

8 全国農業地域の表章区分

全国農業地域名	所属都道府県名
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北陸	新潟、富山、石川、福井
関東・東山	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野
東海	岐阜、静岡、愛知、三重
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国	徳島、香川、愛媛、高知
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島
沖縄	沖縄

9 利用上の注意

- (1) 統計数値については、次の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原 数		6桁 (10万)	5桁 (1万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁数 (下から)		2桁		1桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前(原数)	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値(統計数値)	123,500	12,300	1,230	123

- (2) 表中に用いた記号は次のとおりである。

「0」：単位に満たないもの（例：0.4ha→0 ha）
「－」：事実のないもの
「…」：事実不詳又は調査を欠くもの
「△」：負数又は減少したもの
「nc」：計算不能

- (3) この統計表に掲載された数値を他に転載する場合は、「平成29年産大豆、小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の作付面積」（農林水産省）による旨を記載してください。

10 その他

- (1) この資料の数値は、概数値である。確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（平成30年2月予定）するとともに、その後刊行する『平成29年耕地及び作付面積統計』に掲載する。

なお、公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせする。

- (2) 大豆、小豆、いんげん及びらっかせいの収穫量（概数）については、『平成29年産大豆、小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の収穫量』として平成30年2月に公表を予定している。

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。
【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】
この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「いも・雑穀・豆」の「面積調査」で御覧いただけます。
【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/index.html#y6> 】

【関連リンク】

- 農林水産施策関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞大臣官房
<http://www.maff.go.jp/j/kanbo/>
- 農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞政策統括官
http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/

— お問合せ先 —

◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部
生産流通消費統計課 面積統計班
電話：(代表) 03-3502-8111 内線3681
(直通) 03-6744-2045
FAX： 03-5511-8771

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部
統計企画管理官 広報普及班
電話：(代表) 03-3502-8111 内線3589
(直通) 03-6744-2037
FAX： 03-3501-9644



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)
<http://www.e-stat.go.jp/>